

# 児童ポルノとは何か？

## ー ブロッキングの必要性について

2010年9月10日

(財)日本ユニセフ協会 広報室 中井 裕真



# 「児童虐待犯罪の現場写真」

- 一定の隠語で検索すれば、誰でも容易に閲覧できる
- 過去の「児童ポルノ事件」(事件は「解決」されたもの)画像も大量に残る
- 「児童ポルノ」は、ファイル共有ソフトでも大量に流布されている

# 児童ポルノの被害

- 製造時
- 「誰かが持っているかも・・・」  
→ 一生消えない不安＝トラウマ
- 過った「教育」 → 被害の拡大
- 「子ども」という存在に対する冒涇行為  
(≡差別)

# 被害者の声

私は今、大学生です。

5才の時から11才頃までの6年間、叔父によって性的な虐待を受け、その様子を写真に撮影されました。虐待が始まった頃、私は自分が何をされているのかわからず、叔父の要求に笑顔でこたえていました。ですから、写真の中には自分からすすんで虐待行為を楽しんでいるように思えるようなものも多くあるはずです。

(中略)

両親の都合で遠い土地に引っ越すとともに虐待は終わりましたが、あの写真がどうなったのかを考えると恐ろしくて、中学生にあがってから私はリストカットや自殺未遂を何度も繰り返しました。

インターネットの使い方を覚えてからは、ネット上に自分の写真がばら撒かれていないかと、何かにとりつかれたようになって毎日探しました。そこで日本人だけでなく外国の子供たちが写っている児童ポルノを目にして、背筋が寒くなり、何度も嘔吐して泣きました。でも自分の写真を探すことがやめられないのです。

私の写真ではないだろうかという児童ポルノを見つけても、確証が持てません。どれを見ても自分が写っているように思えます。それに、私のような普通の学生がいとも簡単に児童ポルノを入手できるこの世の中が恐ろしいとも思います。

私は大人になっても恋愛もできません。好きな人ができても、あの写真があるかぎりには自分には絶対に結婚もできないし子供を産むこともできないと考えています。今のように児童ポルノが簡単に手に入る世の中では私はとても過去を忘れることはできません。自分の人生は終わってしまったように感じます。

もし、世の中を変える力のある人がいるのなら、どうか私を助けてください。

## 国際的な取り組み—近年の主な動き

**2007年 欧州評議会条約(2010年発効)**

**2008年 第3回子どもの性搾取に  
反対する世界会議**

**2007～2009年 G8司法・内務大臣会議**



# 児童ポルノー当面の課題

- 法整備と法執行
- 被害者の発見 & 保護 & ケア
- インターネット・ブロッキング等の実施
- インターネット・リタラシーの向上
- 国際的な協力と協調（先進国のリーダーシップ）